

Lab-Sim- Nano / FVIB

ソフト操作説明書

I N D E X

	Page
[1]. 概 要	2
[2]. ソフトインストール	2
[3]. ソフト構成	2
[4]. 画面と操作	3
(A). メイン・メニュー画面	3
(B). 計測画面	4
B-1). 条件設定	3
B-2). 一般設定	7
B-3). 物理量変換	8
B-4). 計測	10
B-5). ファイルと変換	11
B-6). グラフ表示 & 印刷	19
B-7). その他	20
(C). データ再表示 & 印刷	21
[5]. 解析 (オプション).	22
(A). 複数ロガーデータ	21
(B). F F T他	21
[6]. 付 記	21
(A). フォルダー名	22
(B). 印刷例	22

[1]. 概要

本ソフトは、ロガーFR-Vibra用です。
計測データは、ハードディスクにCSV形式でも保存出来ます。
ファイル名を指示してデータの読出しや再表示、
指定されたデータファイルのグラフ印刷を行います。
ソフトは、OSのWindows/XP/Vista/Win7/Win8に対応します。

>以下FR-Vibraをロガーユニットという。

[2]. ソフトインストール

< 本プログラムのインストール >

1). “LabSimNanoFVIB” のCDから

下記のフォルダーのインストーラを実行し、インストールを実行してください。

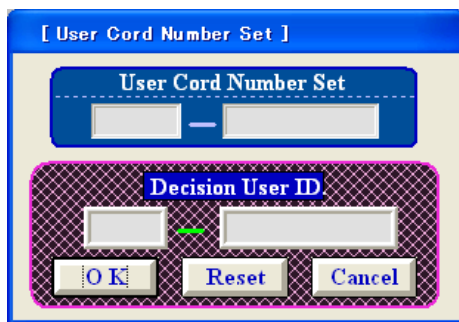
フォルダー名 : “WinXP_Vista_Win7_Win8”

インストーラ名 “LabSimNanoFVIB” の

立上げたインストールの手順に従ってセットアップを実行します。

2). セットアップ終了後、(“スタート” のプログラム内の “LabSimNanoFVIB”)

プログラムを立ち上げます。最初に “User Cord Number Set” 画面がでますので、
CDに書かれている、IDを入力し設定して下さい。



< USBドライバーの設定 >

1). OSが Windows XPの場合

小型データロガー “FR-Vibra” をUSBでコンピュータと接続すると
ドライバーの設定画面が出ますので、その設定画面の指示に従って
ドライバーの設定を行って下さい。使用するドライバーは、
CDの、“FTDI_X64_CDM 2.08.24” フォルダーを選択しドライバー設定して下さい。



2). OSが、Windows Vista、Windows 7、Windows 8の場合は

別冊の “Win7/8でのUSBドライバーソフトのインストール手順” を
参照してFTDIドライバーのセットアップを行って下さい。使用するドライバーは、
CDの、“FTDI_X64_CDM 2.08.24” フォルダーを選択しドライバーを設定して下さい。

[3]. ソフト構成

- a). ソフトは、メインメニュー画面で**一般計測**、及び、**固有計測**や**解析**の指定を行ないます。
(尚、固有計測や解析については、オプション機能。)
一般計測は、計測画面のメニュー、条件設定、連携計測、記録データ読出しや保存、印刷等の機能があります。
固有計測や解析についてはオプション機能で固有用途向けロガーの場合付加されます。
- b). ソフトの一般的な操作手順は、インストール後、①ロガーへの設定条件項目の作成、
②ロガーへの条件送信、③ロガーでの計測、④計測後の記録データの読出しやグラフ表示
となります。又、⑤記録データの保存や印刷の実行、
⑥ファイルの変換（テキスト変換やCSV変換）等の機能を持ちます。
- c). ソフトの基本操作方法は、以下の様です。

*. 各画面の共通項目

- 1). “画面印刷” … 開かれている画面の印刷を行います。(データ等の表示)
(グラフ印刷等は、それぞれのフォーマット印刷で行ってください。)
- 2). “前画面へ” … その画面が開かれる前の画面に戻ります。
- 3). カーソルが十字の場合は、その項で何らかの入力が行えます。
- 4). 手 () 等のアイコンでは、その表示のコマンドボタンの入力可。
- 5). スピンボタン  アイコンは、入力選択に使用。
- 6). “このデータを既定値にする”
 - ・コンピュータの電源断後もオフセット値を記憶させておきます。
 - ・再電源立上げ後、その値を使うことが出来ます。
- 7). “キャンセル”
このボタンをクリックで、設定したデータをキャンセルすると同時に、元の画面に戻ります。

[4]. 画面と操作

(A). メインメニュー画面 (“解析” は、オプション)

《Main Menu》画面



【 Lab-Sim-Nano / FVIB 】

本ソフトは、画面は、“メインメニュー”や“計測”、“解析”(オプション)画面、等で構成されています。
対応するハードはロガーユニットで、条件を受信後、
ロガーユニット単独で動作可能です。

又、条件の送受信や結果データ等についてのPC側との通信は、
USB経由で行います。

尚、ソフトはXP、Vista、Win7、Win8に対応します。

(B). 計測画面

・ カーソル動作の場合、“現在表示値”が
“カーソル値表示”となります。

・ 軸設定がY軸->ChN と設定した
場合 ChN のデータを表示します。

メニューバー

α 2

α 1

α 3

α 4

α 5

スクロールバー → カーソルを操作

< 計測結果ファイル名・測定者名入力 >

①. 計測結果ファイル名

計測画面上の‘計測結果ファイル名’のパネル部をクリックすると
入力ボックスが表示されます。

入力数は、大文字、小文字、全角、半角には、関係無く文字数は、12文字入力可。

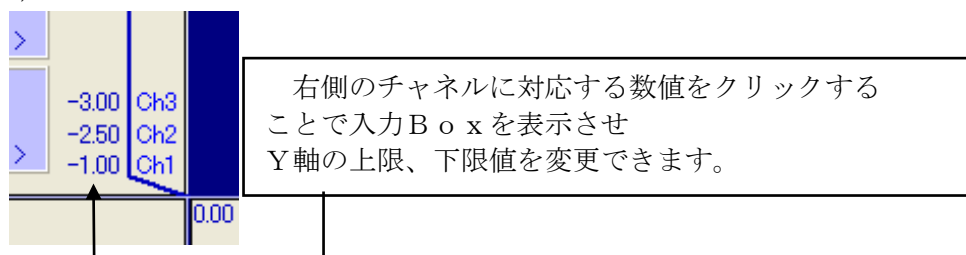
②. 測定者名

計測画面上の‘測定者’のパネル部をクリックすると入力ボックスが表示されます。

入力数は、大文字、小文字、全角、半角には、関係無く文字数は、10文字
入力可。

◎. 説明項目 (α部)

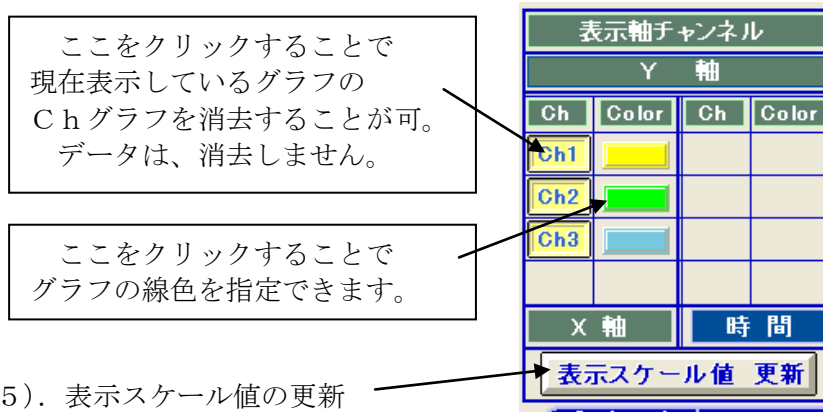
(α 1).



(α 2). 条件設定画面で設定された項目がチャンネル毎に表示されます。

(α 3). X軸の上限、下限値を変更できます。

(α 4). グラフ表示選択



(α 5). 表示スケール値の更新

現在のグラフのスケール値を既定値にします。

◎. ボタン

• ロガーメモリ “イニシャライズ” ボタン

ロガーとPCをUSB接続し、このボタンクリックでロガーの記録メモリのイニシャライズを行います。

(記録メモリに有効データがある時は、データの読出しを先に行ってください！！イニシャライズ後、条件データの送信が有効になります。)

• 条件送信 “送信” ボタン

A/Dの計測条件 (サンプリング周期時間、サンプリング数、使用チャンネル、レンジ等) を設定して “条件送信” ボタンでロガーユニットに送信できます。

(ロガーユニットはスタンバイの事)

• ロガー内 “データ有無” チェック ボタン

ロガー内メモリのデータの有り無しチェックボタン、データの有無はメッセージパネルに表示します。

• メディア “データ読出” ボタン (USBモードで読出し可能状態であること。)

PCとロガーユニットをUSBで接続します。

PCの “データ読出” ボタンをONすれば記録メモリ内のデータを読出します。

ロガーユニット で記録メモリのエリアに複数のファイルを保存していた場合、
 PC側に送信時、ファイルデータはファイル毎に現在のファイル名の
 最後にアンダースコア ‘_’ と No を順次付して保存していきます。

B-1). “条件設定”

<本サブ画面で条件設定後、計測画面の条件送信ボタンで条件を更新します。>

- イ). <計測モード> —— (D) 計測を参照下さい。
- ・“通常”モード —— ロガーのスタートスイッチでの動作
 - ・“時間”モード —— 時刻設定の設定時刻で動作
 - ・“Soft. Trig.”モード —— レベルトリガで動作 (指定トリガ Ch 選択)
 プリトリガ数は各 Ch 合計で約 600p Ch 毎では “600 p / 測定 Ch 数” となります。(例えば 3ch の場合 約 600 / 3ch => 200p が各 Ch 分)
- ロ). “チャンネル設定の選択”
- ・ Farst channel --- M、 Last channel --- N
 チャンネルは、M から N までの設定となります。
 (N Ch は、M Ch よりも大きくして下さい。Max 6 (Ch) です。)
- ハ). “レンジ電圧 … (0 ~ 3.0V) レンジは全Ch 切替です。
 (アダプタ付アナログ入力ケーブルを使用すると他のレンジの選択にも対応)

ニ). “サンプリング設定”

・“周期時間(msec)”

0.5 ⇔ 1 ⇔ 2 ⇔ 5 ⇔ 10 ⇔ 20 ⇔ 50 ⇔ 100 ⇔ 200 ⇔ 500
⇔ 1000 とスピンドットをクリックする毎に順次切替わります。

(注1) 連携モードで測定時、リアルタイムでグラフ表示を行うのは
5 m s e c 以上です。

ホ). “回数”

100 ⇔ 500 ⇔ 2000 ⇔ 5000 ⇔ 10000 ⇔ 50000 ⇔ 200000 ⇔ 1000000
⇔ 2500000 ⇔ 5000000 ⇔ 10000000 ⇔ 20000000
とスピンドットをクリックする毎に順次切替わります。

ヘ). “時刻設定”

時刻設定はモードを“時 間” 選択で計測の開始時刻と停止時刻を
設定出来ます。

内蔵クロック自体の時刻合わせは、メニューバーの“一般設定” 中の
“時計設定” で合わせます。)

B-2). “一般設定”

・“キャリブレーション”

(キャリブレーションは記録メモリの読出し時に実行)

(通常は、倍率“1.000”、オフセット値“0.000”で御使用下さい)

		チャンネル							
		1	2	3	4	5	6		
倍 率		1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000		
オフセット値		0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000		

このデータを設定値にする キャンセル

・倍率、オフセットを設定

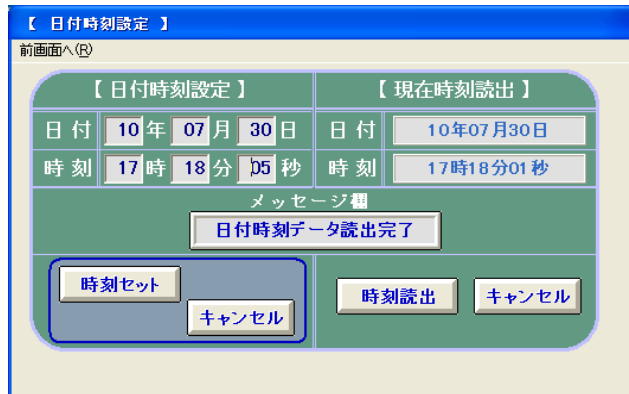
(-999.999 ~ 999.999 の間の数を設定可)

注). キャリブレーション設定値は、《チャンネル項目設定》の物理量変換で
項目は電圧とし、その最高値の入力は、各レンジの電圧を入れ、最低値は、
‘0’を入れてから行って下さい。

《 キャリブレーションの方法 》

まずオフセットを設定し、次にゲインを設定します。

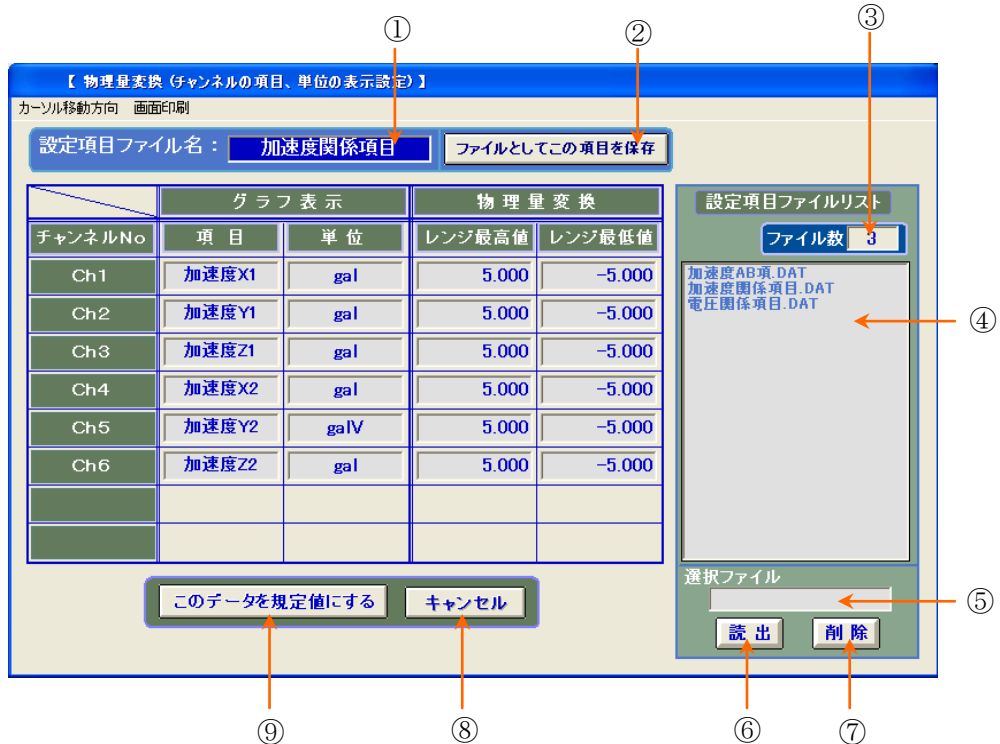
- ・“時刻セット”（PCとロガーをUSB接続して実施）



- 1). “時刻セット” … 現在の時刻をロガーユニットに送信します。
- 2). “時刻読出” … ロガーユニット側の現在時刻を読み出します。

B-3). “物理量変換”

(ロガーユニットの場合は、Maxチャンネルまで設定可)



- a). チャンネル項目設定でサンプリングしたデータ（電圧）を物理量に変換表示できます。項目単位レンジ最高値、レンジ最低値の各欄は、マウスでクリックし、キー入力出来ます。
- b). 項目欄は、物理量表示項目をキー入力します。
又、物理量の単位は、単位の欄に入力します。

- c). レンジ最高値とレンジ最低値は、そのレンジの最大電圧時の物理量対応値とレンジの最低電圧時の物理量対応値を入力します。
- ・表示を電圧で行う場合は、レンジ電圧そのものを最高値として入力します。(キャリブレーションの時は、電圧表示にして行ってください。)
- d). “このデータを既定値にする” クリックすると入力した各データは、保存されます。保存されたデータは、グラフ表示の各欄に反映されます。

<物理量変換項目の設定・保存・規定値への設定>

- a). “設定項目ファイル名” ①現在表示されている項目が保存されているファイル名を表示。
- b). Ch 1 から Ch 6 まで設定した項目と最高・最低レンジのデータを設定項目名で表示されるファイル名で保存します。別名で保存したい場合は、①の設定項目ファイル名をクリックし、Input Box を表示させ、その名前を変え、この“ファイルとしてこの項目を保存” ②ボタンをクリックして保存が可能。
- c). 物質量変換項目を別の項目に変えたい場合は、その項目が書かれているファイルを読出します。④のリスト項目に必要な項目を持っているファイルを選択 (“選択ファイル” は⑤に表示) し、“読出” ⑥ボタンをクリックしデータの読出しが可。
- 又、選択したファイルをダブルクリックしても読出しが可。
- 選択するファイル
- d). 不要なファイルをファイル削除する場合は、④のリスト項目からファイルを選択 (“選択ファイル” は⑤に表示) し、“削除” ⑦ボタンをクリックすることで削除が可。
- 又、④のリスト項目で選択したファイルをマウスの左のクリックボタンでも削除することが可。
- e). “このデータを規定値にする” ⑨ボタンでこのプログラムを上げた時、設定しているデータを規定値にすることが可。
- 又、このボタンは、‘データを規定値として使用する’ か ‘否か’ を問うてきます。
- 規定値として使用しない場合は、このプログラムの終了までは、このデータを使ってデータの算出を行います。
- “キャンセル” ボタンを押せば、現在のままの設定で動作させます。

B-4). “計測”

a). PCとの連携計測（リアルタイムで計測値をPCグラフ表示）

- 1). ロガーユニットをUSBで接続します。
- 2). 計測条件を設定し、“条件送信” ボタンで条件をロガーユニットに送ります。
送るとロガーユニットのBY-LEDは、1回点滅します。
(条件の更新には、まずイニシャライズが必要です。記録メモリに有効データがある場合には、読出し実行後、イニシャライズして下さい。)

3). 次にパソコンの“スタート準備” ボタンを押します

パソコンは、“スタート信号待ち！！” のメッセージを出します。

この時、ロガーユニットのロータリスイッチのSA(スタート)にすると計測を開始します。

設定したサンプリング数か、ロータリスイッチを戻すと停止します。

4). 停止したらファイル名を付してデータ保存を行います。

尚、この保存は、1回の計測毎に行ってください。

最大50回までの計測とデータ保存が出来ます。

5). 停止後、保存したデータファイルの再表示や印刷等が行なえます。

(計測中は、計測条件、メニューバー、スクロールバー等の操作は、出来ません。)

- ・メッセージ ボックスには、その都度の状態表示が表示されます。
- ・計測データは、メニューバーの“ファイル” → “計測結果” で
“名前を付けて保存” か “上書き保存” でデータをファイル保存します。

b). スタンドアロン計測（ロガー単独での計測）

(この計測で“時計”モードについては一回毎に条件設定を行ってください。)

- ・USBを接続せずにロガーのパワースイッチを入れます。

(条件は、予め入れておくこと)

1). “通常”モード

ロガーのロータリスイッチ (“SA” スタート) に回すと

“BY” LEDが点灯し計測を始めます。

設定サンプリング数に到達するか、ロータリスイッチを戻す(スタンバイ)と、計測を終了します。

2). “時計”モード

ロータリスイッチ (“SA” スタート) に回すと、ロガーの “BY” LEDは、点滅し、開始時刻に達すると、測定開始となります。

時計モードの時は、終了時刻に到達すると計測を終了します。

尚、何れの時もロガーのロータリスイッチを戻す (スタンバイ) と中途終了できます。

3). “トリガ”モード (表示: “Soft Trig”)

ロータリスイッチ (“SA” スタート) に回してスタート状態にすると、開始トリガ待ちになり、MD-LED が点滅を始めます。

設定されたトリガ ON で動作開始します。

(プリトリガ時間はサンプリング時間 × プリトリガ数)

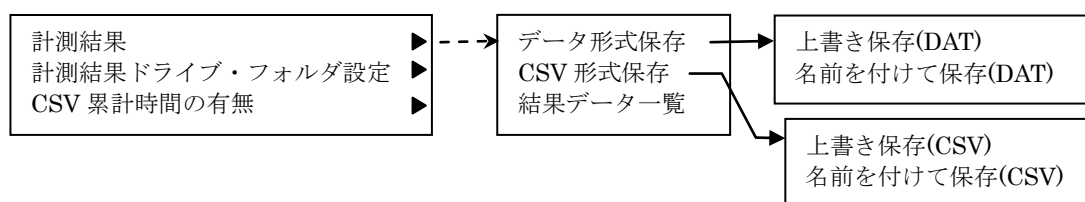
サンプリング時間(msec) (インターバル)	プリトリガ数	プリトリガ時間
0.5,1,2,5,10,20,50,100,200,1000	Ch 総計 720P	インターバル × (プリトリガ数/測定 Ch 数)

例). 3CH 測定 インターバル 10m s e c の場合は、 $10(\text{ms}) \times (600\text{P} / 3\text{CH}) = 2 \text{ 秒}$

4). “同期”モード (オプション)

このモードの実行には同期スタート、ストップユニットが必要

B-5). ファイルと変換



PCとロガーの連携計測時やロガーよりの記録データ読み出し時にデータ保存を行います。

(a). “計測結果”ファイル

①. “データ形式保存”

- ・ “上書き保存”

現在の計測結果ファイル名での計測結果データの保存をします。

- ・ “名前を付けて保存”

計測結果ファイル名を付してデータの保存をします。

②. “CSV形式保存”

(CSV累計時間を付す場合は、(h) . “CSV累計時間の有無” を参照)

- ・ “上書き保存(CSV)”
- ・ “名前を付けて保存(CSV)”

* 1. ‘CSV’ → CSV形式で保存

* 2. ‘Excel’での‘CSV’保存形式

No	Ch1	Ch2	Ch3	Ch4	Ch5	Ch6
1	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
2	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
⋮						
⋮						
⋮						
⋮						
N	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx

③. データ保存のフォルダー名 ([7]. 付記 (B) 参照)

*. メインフォルダー名

“FolderLabSimNanoFVIB”

a-1). “結果データ一覧”

この項目を選択で下記の様な【計測結果ファイルリスト】が表示されます。

(イニシャル時の設定では“計測結果フォルダー”にデータは、入ります。)

【計測結果<DAT形式>ファイルリスト一覧】

ファイル 画面印刷 前画面へ

計測結果フォルダー名
C:\FolderLabSimNanoFRSYC\計測結果フォルダー

計測結果ファイル名
6ch250mn_1

測定日
2013年11月02日

CSV変換時累計時間 無

ファイル数
2

6ch250mn_1.DAT
6m20_1.DAT

読出
削除
TXT保存
CSV保存

TXT変換保存
TXTファイル一覧リスト

200万点
500万点
1000万点
2000万点

CSV変換保存
CSVファイルリスト一覧

・“CSV変換時累計時間”の項をクリックするとCSV変換時、インターバル時間の累計の項目を保存時追加されます。

・表示ファイルがリストボックス一杯になるとスクロールバーが表示されます。

リストボックス

a-1-1). ‘メニューバー’ の “ファイル”

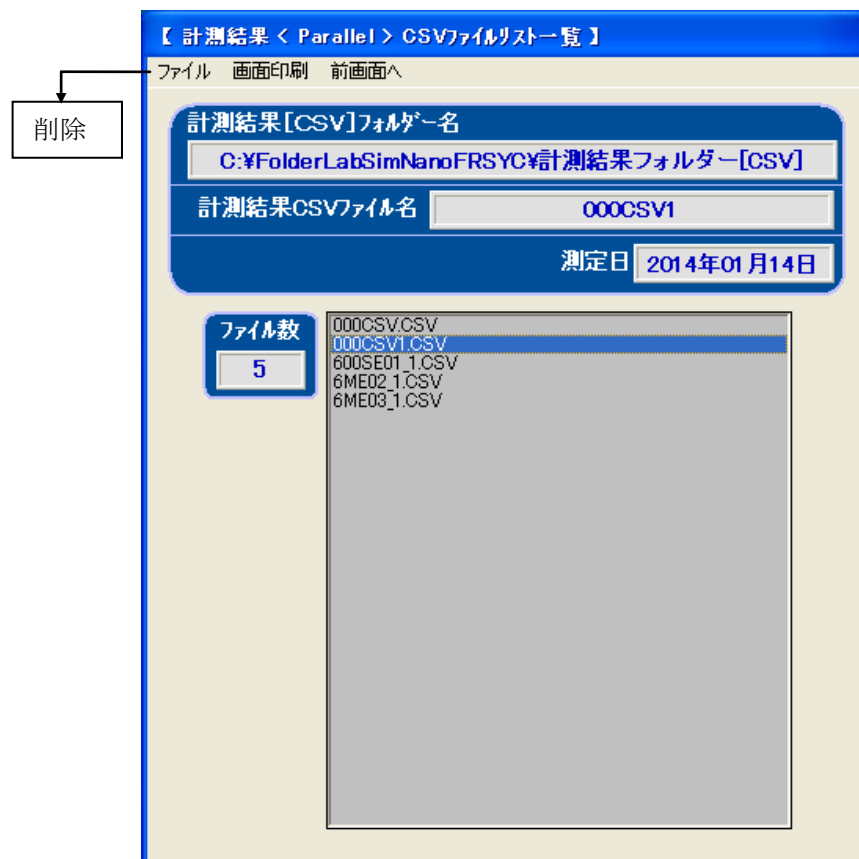
- 1). “読出” … 選択したファイルの読出しを行います。
(リストボックスの中のファイルを選択し、ダブルクリックをしても読出せます。* (E) 参照)
- 2). “削除” … 選択したファイルの削除をします。
- 3). “CSV 保存”

3-1. “CSV 変換保存”

変換手順は、リストボックスで変換したいファイルを選択し、‘CSV 変換保存’ をクリックすることでデータを CSV 形式で変換保存されます。

4). “CSVファイルリスト一覧”

変換ファイル後のファイルは、
(イニシャル時の設定では “F o l d e r LabSimNanoFVIB” の “計測結果フォルダー[CSV]” に入ります。)



*. 結果データ（‘DAT’、‘CSV’ のフォルダーは、計測画面（計測画面例）のメニューバー “ファイル” の “計測結果ドライブ・フォルダ設定” で選択、作成されたフォルダーに保存されます。

5). “TXTファイル変換” (TEXTファイル)

5-1. “TXT変換保存”

このTXT保存は、長いファイルをひとつのTXTファイルに変換保存することが出来ます。

注). TXTファイルは、試験条件と試験結果コメント等を保存するファイル『 ‘ファイル名’ + ‘COD’. TXT 』と、試験結果データ『 ‘ファイル名’. TXT 』の2種類のファイルを作成します。

5-1-2. “TXT変換保存”

選択した計測結果ファイルを その計測結果ファイル名での計測結果データを“TXT”形式で保存をします。

* 1. TXT形式で保存の場合

* 2. 例えば ‘Origin’ での ‘TXT’ 保存形式の参考例です。

ヘッダー部は、 5列、5行

6行 {

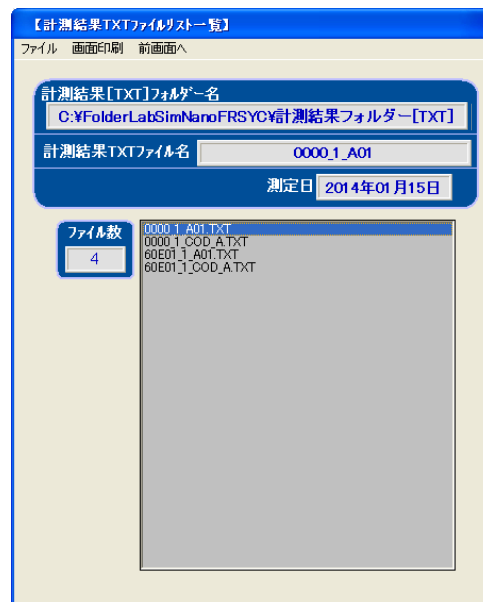
	Ch1	Ch2	Ch3	Ch4
1				
2				
3				
4				
.				

5列

注). 測定チャンネルがひとつの場合は、ヘッダー部は、1行増えます。

6). “TXTファイル一覧関係”

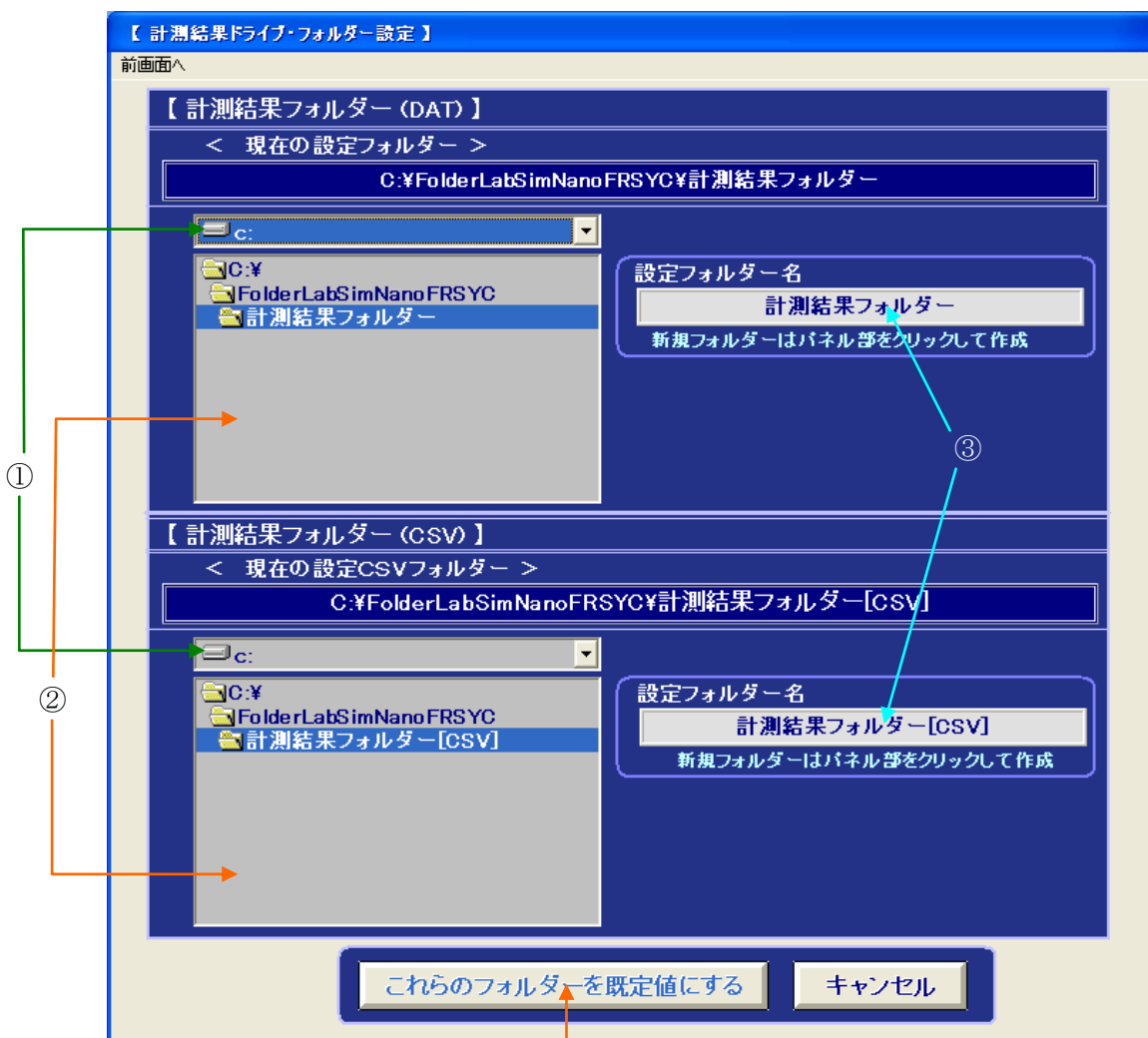
6-1. ‘TXTファイルリスト一覧’ … TXTファイルの一覧リストです。



(b). “計測結果ドライブ・フォルダ設定”

メニューバーの“ファイル”からこの“計測結果ドライブ・フォルダ設定”を選択することでこの画面に入ります。

この画面で試験結果のデータファイルの保存フォルダー、及び CSVデータファイルの保存フォルダーを選択、又は、作成が可。



- ①. ドライブ部を選択
- ②. フォルダー部を選択（ここをダブルクリックしてフォルダー部を設定）
ダブルクリックすると“設定フォルダー名”にそのフォルダー名が表示。
- ③. データの保存フォルダーを作成設定。
クリックすると入力ボックスが出力されますので、そのボックス内で新規フォルダーを作成出来ます。
- ④. 現在表示しているそのフォルダーを既定値として設定。

- ◎. イニシャルフォルダーは、
“C:\FolderLabSimNanoFVIB\計測結果フォルダー” と
“C:\FolderLabSimNanoFVIB\計測結果フォルダー[CSV]” です。

c). “CSV累計時間の有無”

CSV変換時インターバルの累計時間も保存するか否かを既定値として保存出来ます。



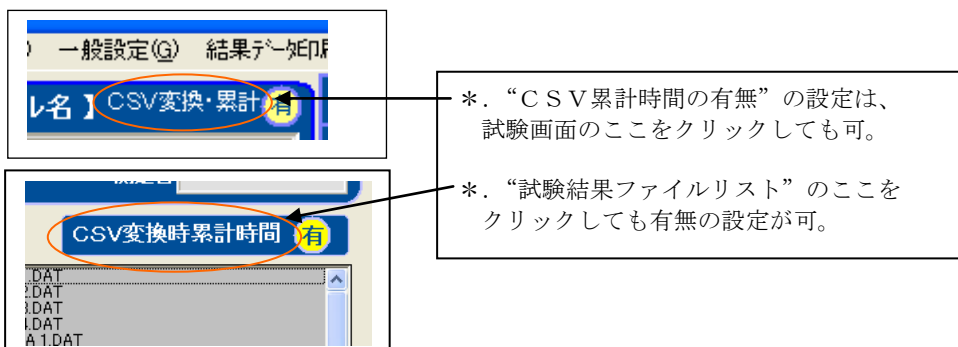
ここをクリックすることで“有無”を選択。

・ CSV累計時間の有の場合のCSVファイル

21	-----				
22	試験サンプル数	415			
23	-----				
24	トータルチャンネル数	3			
25	No	T.Time(Sec)	Ch1	Ch2	Ch3
26	0	0	-2.41	-2.049	-0.944
27	1	0.01	-2.53	-2.49	-2.528
28	2	0.02	-2.484	-1.221	-1.258
29	3	0.03	-2.53	-1.221	-1.26
30	4	0.04	-2.484	-2.173	-2.211
31	5	0.05	-2.484	-0.903	-0.944
32	6	0.06	-2.53	-2.49	-2.528
33	7	0.07	-2.484	-1.221	-1.258
34	8	0.08	-2.53	-2.49	-1.265
35	9	0.09	-2.484	-2.173	-1.265

23	-----				
24	トータルチャンネル数	3			
25	No	Ch1	Ch2	Ch3	
26	0	0.393	0.85	2.043	
27	1	0.396	0.85	2.041	
28	2	0.396	0.852	2.043	
29	3	0.396	0.85	2.043	
30	4	0.396	0.852	2.043	
31	5	0.396	0.85	2.041	
32	6	0.396	0.852	2.041	
33	7	0.396	0.85	2.041	
34	8	0.396	0.852	2.041	

*. “CSV累計時間の有無”の設定は、下記の場所でも可。

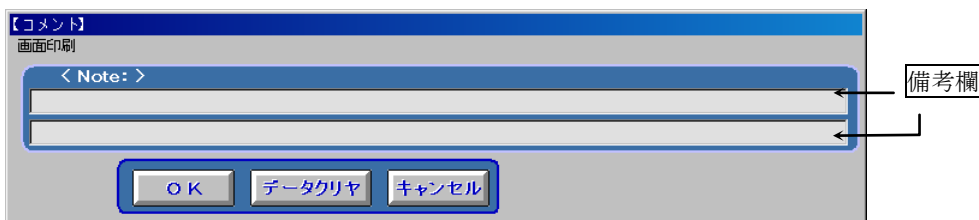


B-6). グラフ表示 & 印刷

①. “結果データ印刷”

- | | |
|-------------|---|
| 画面印刷 ▶ | ・ “画面印刷” … 表示画面の印刷をします。
グラフ表示は、参考表示です。 |
| カラーモノクロ設定 ▶ | ・ “カラーモノクロ設定” … 印刷の実行をカラー、モノクロかを設定する。 |
| フォーマット印刷 ▶ | ・ “フォーマット印刷” … A4サイズのデータ表示のグラフ印刷を行います。
(印刷例は [7] 付 記 (A)を参照下さい。) |

②. “備考記入”



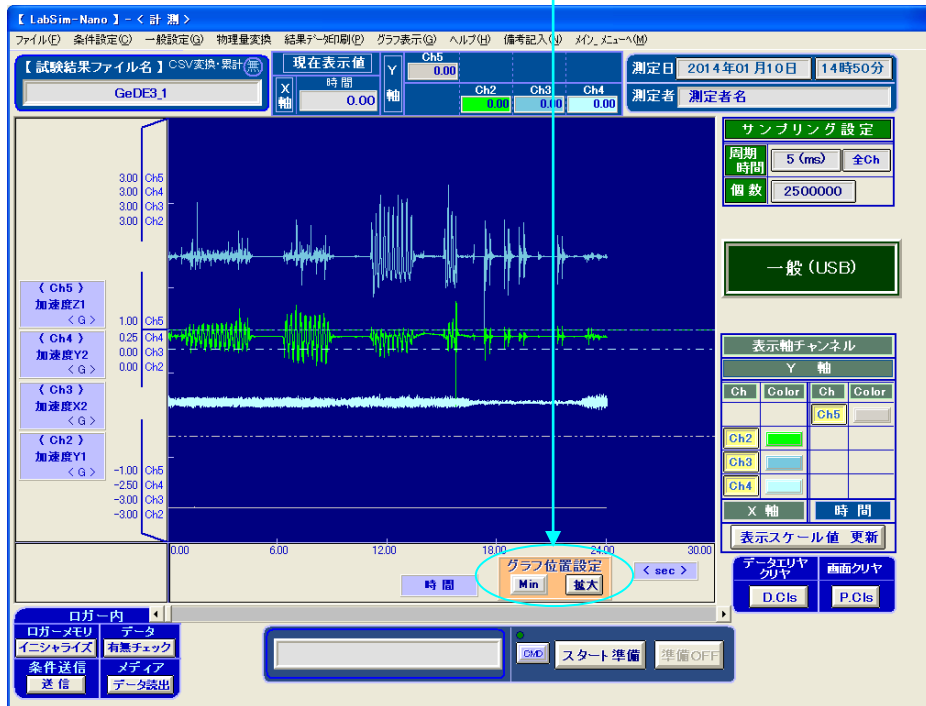
- ・ 備考欄は、1行48文字まで記載できます。
(大文字、小文字、全角、半角には、関係無く文字数は、48文字入力です。)
- ・ この項目は、印刷時、フォーマット印刷の備考欄に印刷されます。

③. “グラフ表示”

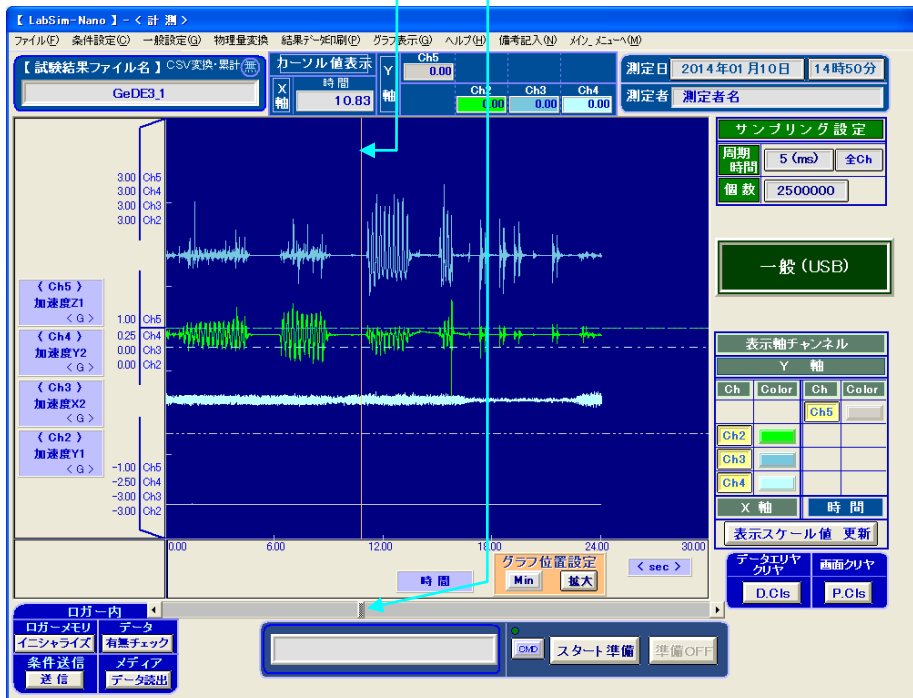
- | | |
|---|---------|
| <ul style="list-style-type: none"> グラフ部分拡大 グラフカラー設定 グラフゼロライン消去 表示チェック | → ③-1)項 |
|---|---------|

③-1). “グラフ部分拡大” (2 Ch~5 Chを使用してデータ取込をした場合)

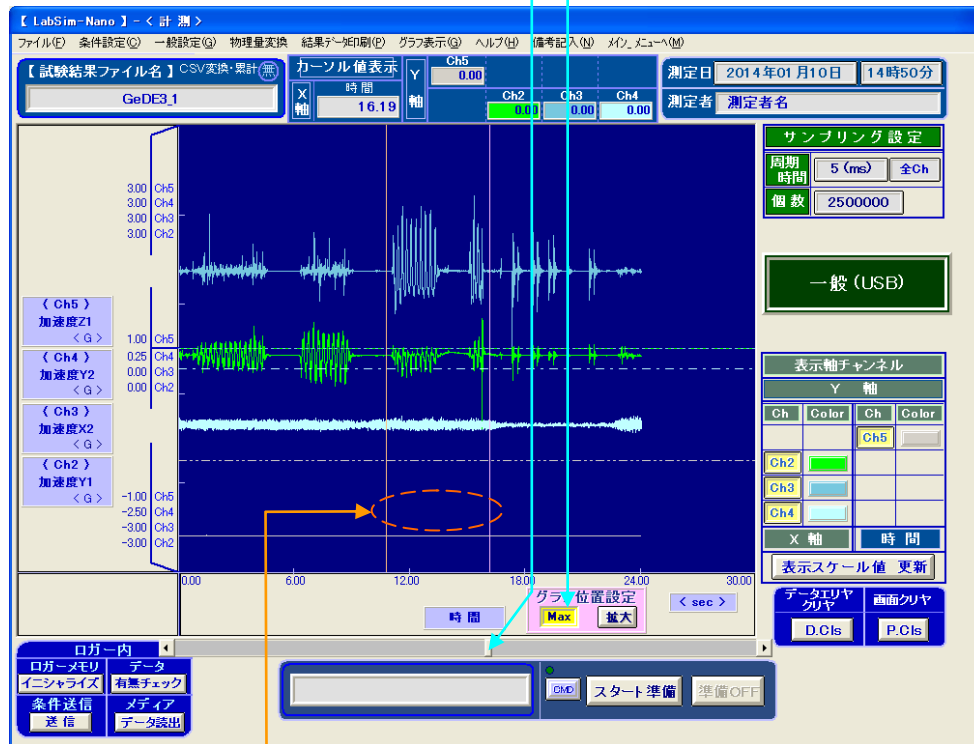
- ・“グラフ部分拡大”をクリックすると橙丸部分が表示されます。



- ・カーソルをスクロールして最小値 (X軸) を設定。(肌色)

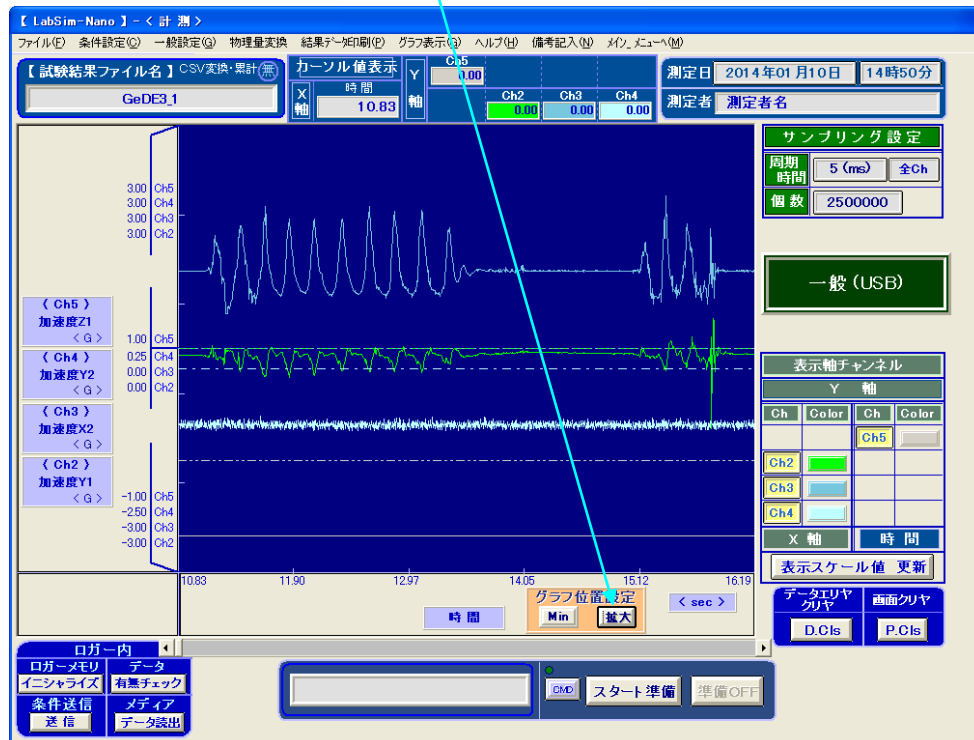


- 次に“Min” ボタンをクリックし“Max”にし、スクロールすれば最大側のスクロール線（ピンク）を表示、そのバーをスクロールして所定位置に設定します。



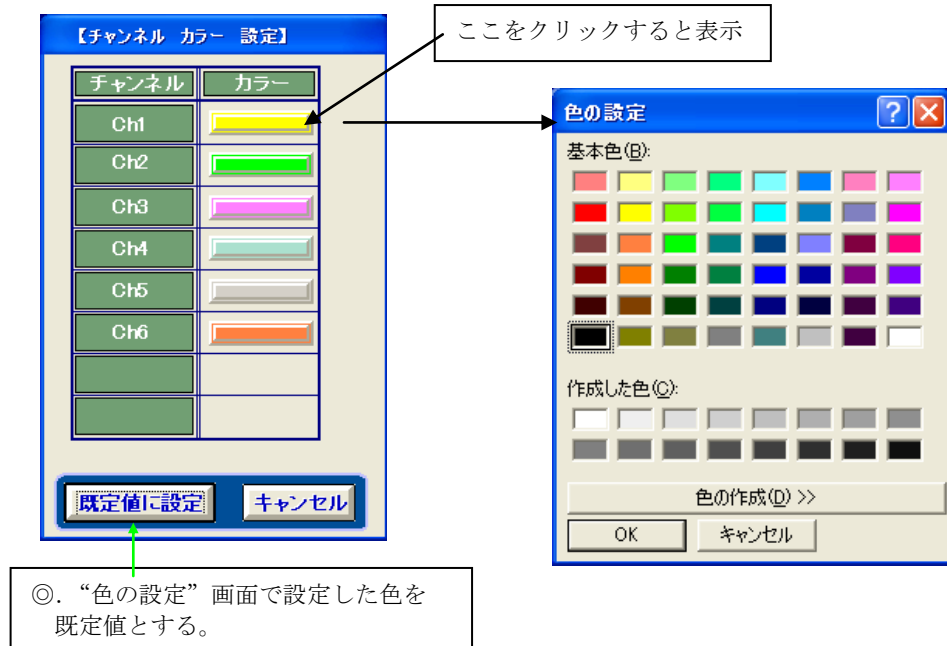
◎. この間を拡大表示。

- カーソルを設定し終わったら“拡大” ボタンをクリックすると、最小、最大で設定したX軸（時間）を最小値、最大値にしたグラフ表示をします。



*. “グラフ部分拡大” は、“再表示” 画面でも操作は同様に可。

③-2). “グラフカラー表示” … チャンネル色の設定



③-3). “グラフゼロライン消去”

グラフ上のゼロラインを消去します。

③-4). “表示チェック”

画面下部に ‘Sin Sample’ のコマンドボタンが表示され、このボタンをクリックすると画面にサインカーブを表示します。

B-7). その他

①. “ヘルプ” … バージョン情報の表示。

②. “メインメニューへ”

メインメニュー画面に戻ります。

(C). データ再表示&印刷

メニューバー

・ 軸設定がY軸->ChN と設定した場合 ChN のデータを表示します。

【データ再表示】
 ファイル(F) 結果データ印刷(P) グラフ表示(G) ヘルプ(H) 備考記入(N) メインメニュー(M)

【試験結果ファイル名】 CSV変換・累計 無

現在表示値 Y Ch5 0.00
 X軸 時間 0.00 軸

測定日 2014年01月10日 14時50分
 測定者 測定者名

Ch2 0.00 Ch3 0.00 Ch4 0.00

メニューバー

・ 軸設定がY軸->ChN と設定した場合 ChN のデータを表示します。

ソフトトリガ (Soft Trig)
 トリガCh 1
 レベル プリトリガ数
 20 720/Ch数

表示軸チャンネル
 Y 軸
 Ch Color Ch Color
 Ch2 緑 Ch5 黄
 Ch3 橙
 Ch4 青
 X 軸 時間
 表示スケール値 更新

データエリヤ クリヤ 画面クリヤ
 D.CIs P.CIs

データNo 0 時間 < sec >

読出に切換

スクロールバー → カーソルを操作

ソフトトリガ有りでプリトリガがある場合、その位置をこのカーソルで表示

注①. 点線内は、再表示時に表示し、カーソルで表示する時間を何個目のデータに相当するかを表示させます。

- ・ 計測画面から (B) の 1) “ファイル”、2) “計測結果” の “結果データ一覧” から選択したファイルの読出しを行うと、フォームの見出しが “データ再表示” 画面へと変わります。この画面では、条件設定は出来ません。

画面上での操作、軸設定、グラフ画面の大きさ調整(($\alpha 1$)、($\alpha 2$))、カーソル操作等は、計測画面の時と同じです。

- ・ この画面から計測画面に移行したい時は、画面右下に **計測に切換** コマンドボタンをクリックすることで切換わります。

[5]. 解 析 (オプション) 画面

- (A). 同期モードと複数ロガーデータ
- (B). F F T や逆 F F T

[6]. 付 記

(A). フォルダー名

*. メインフォルダー名—— “F o l d e r LabSimNanoFVIB”

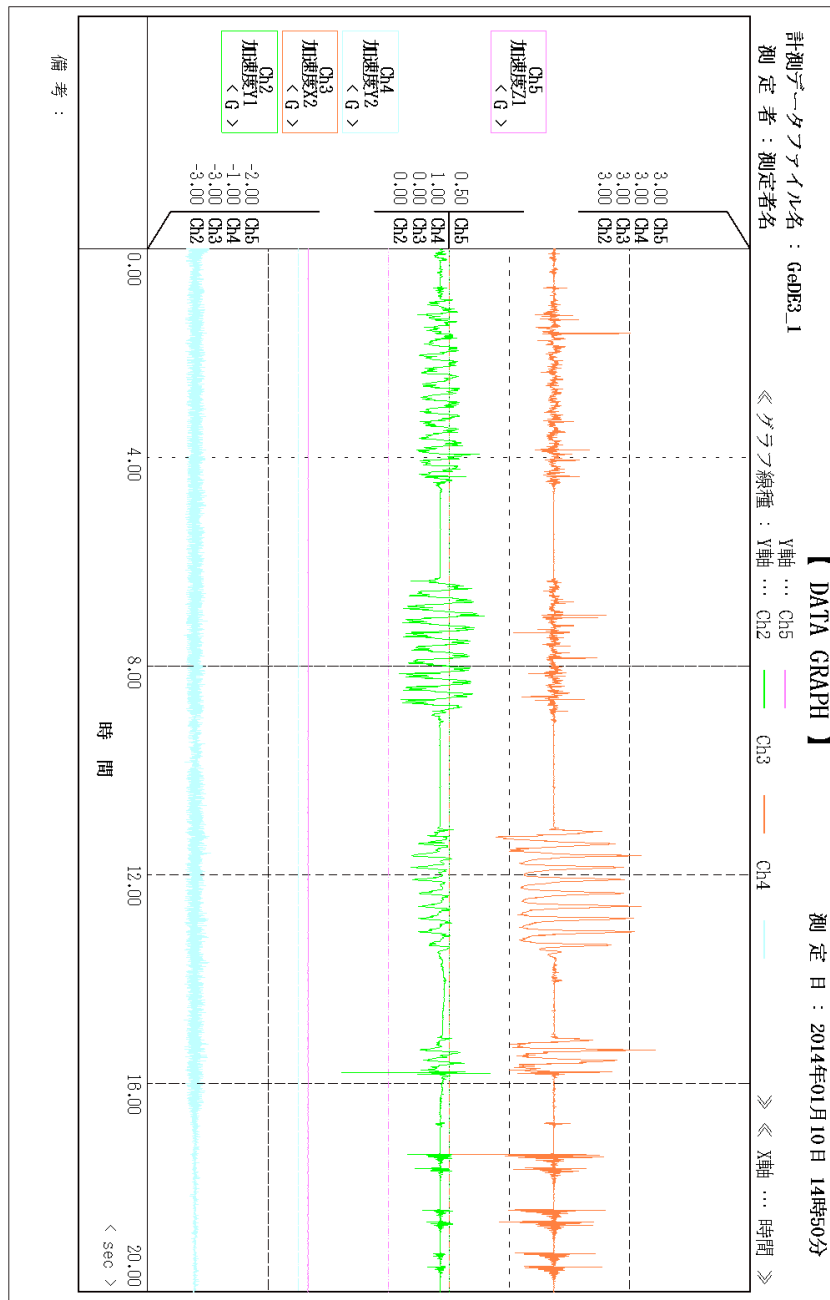
- 1). 計測結果データファイル名 … Max 12 文字
- 2). イニシャル時の計測結果データフォルダー名称 —— D A T 形式データファイル
“C:¥FolderLabSimNanoFVIB¥計測結果フォルダー”
- 3). イニシャル時の計測結果 C S V フォルダー名称 —— C S V 形式データファイル
“C:¥FolderLabSimNanoFVIB¥計測結果フォルダー[CSV]”
- 4). 試験画面での ‘画面印刷’ について

画面印刷は、機種によって表示ポイントが異なりますので グラフを含む印刷は、メニューバーの ‘結果データ印刷’ の ‘フォーマット印刷’ で行ってください。

- ◎. 2)、3)については “計測結果ドライブ・フォルダ設定” で設定した計測結果フォルダーを使用。

(B). 印刷例 (フォーマット印刷 (A4用紙 横印刷))

a). チャンネル表示が 複数チャンネルの場合。(カラー印刷)



 *取説は改善の為変更することがあります。
 *本取説を弊社の了解無く他に掲載することは、お断りします。

(有)ローム理研
 TEL 053-572-3961
 E-Mail rohrm@mx2.nisiq.net